

超音波検査室の明るさを 300ルクス以上にして検査

超音波検査者が安全・快適に健康的に働くための提言および
VDT作業ガイドラインでは300ルクス以上の照度が望ましいとされているが、
実際にどれくらいの明るさか
照度計を用いて自身の検査時の目線の高さに計測した。
添付画像のように想像よりも明るい環境であった。

以前、暗所恐怖症の患者に対する検査で事前情報がなかったため
検査中に不穏となり継続困難となった症例を経験したこともあり、
300ルクス以上で検査することになっている。

実際に患者から明るい方が落ち着くといった声や
検査中に顔色や表情など容態の変化に気づきやすい、
体感での疲労感軽減というメリットがあった。
デメリットとしてややゲインが高めの状態で検査することが多くなったが
病変評価時に適宜調整することで大きな支障はないと考えられる。
個人的な見解だが、明るい中で患者にみられながら検査しているという
精神的負荷も検査をするうえで身が引き締め良いのではないかと思う。

